

注3 **大学番号：公021**

[平成31年度設置]

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

**認可**

島根県立大学大学院看護学研究科看護学専攻

注2

**【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書**

公立大学法人島根県立大学

令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 教務学生課

職名・氏名 課長 サカタ坂田 エイイチロウ栄一郎

電話番号 0853-20-0200

（夜間） 0853-20-0214

F A X 0853-20-0201

e-mail i-kyoumu@u-shimane.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

島根県立大学大学院看護学研究科看護学専攻

＜博士後期課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	23
7. その他全般的事項	25

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

公立大学法人島根県立大学

## (2) 大学名

島根県立大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒693-8550

島根県出雲市西林木町151

(〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(キヨハラ マサヨシ) 清原 正義 (平成29年4月)	該当なし	
学長	(キヨハラ マサヨシ) 清原 正義 (平成29年4月)	該当なし	
研究科長	(イシバシ テルコ) 石橋 照子 (平成28年4月)	該当なし	
専攻長等	(イシバシ テルコ) 石橋 照子 (平成28年4月)	該当なし	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。）
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程 博士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	年 3	人 2	年次 一人	人 6	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	二人 (-) [-]	一人 (-) [-]	二人 (-) [-]	一人 (-) [-]	1.25倍	一倍	
志願者数	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	2 (-) [-]	— (-) [-]	3 (-) [-]	— (-) [-]			
受験者数	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	2 (-) [-]	— (-) [-]	3 (-) [-]	— (-) [-]			
合格者数	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	2 (-) [-]	— (-) [-]	3 (-) [-]	— (-) [-]			
B 入学者数	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	— (-) [-]	2 (-) [-]	— (-) [-]	3 (-) [-]	— (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	—		—		—		1.00		1.50				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様に行ってください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	2 [—] (—)	— [—] (—)	3 [—] (—)	— [—] (—)	
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	2 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次	/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4年次	/		/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [ — ] ( — )		— [ — ] ( — )		— [ — ] ( — )		2 [ — ] ( — )		5 [ — ] ( — )		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	2 人	0 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	5 人	0 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\text{該当なし}} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\text{該当なし}} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\text{該当なし}} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{5} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<看護学研究科看護学専攻博士後期課程>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤科目	看護研究特論Ⅰ	1前	2			2						3
	看護研究特論Ⅱ	1前	2			1						1
	看護教育学研究	2前	2			1						1
	島根と地域医療	1前		2		1						5
	保健医療福祉政策論Ⅱ	2前		2		1						1
	健康栄養特論Ⅱ	2前		2		4						2
	小計(6科目)	-										
専門科目	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ	1通		2		2	1					
	がん看護学特論Ⅲ	1通		2			1					
	精神看護学特論Ⅲ	1通		2		1	1					
	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ	1通		2		2						2
	地域保健学特論Ⅲ	1通		2		6						
	小計(5科目)	-										
研究科目	後期特別研究	1~3通	6			11	3					
	小計(1科目)	-										
合計(12科目)		-										
卒業要件及び履修方法												
3年以上在学し、基盤科目から5科目10単位以上(必修科目3科目6単位を含む。)、専門科目から1科目2単位以上、研究科目6単位、合計18単位以上を修得し、かつ、指導教員の指導下に博士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤科目	看護研究特論Ⅰ	1前	2			2						2
	看護研究特論Ⅱ	1前	2			1						1
	看護教育学研究	2前	2			1						1
	島根と地域医療	1前		2		1						5
	保健医療福祉政策論Ⅱ	2前		2		1						1
	健康栄養特論Ⅱ(未開講)	2前		2				3				2
	小計(6科目)	-										
専門科目	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ(未開講)	1通		2			1					1
	がん看護学特論Ⅲ(未開講)	1通		2				1				
	精神看護学特論Ⅲ	1通		2		1	1					
	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ(未開講)	1通		2		2		3	1			
	地域保健学特論Ⅲ	1通		2				4				
	小計(5科目)	-										
研究科目	後期特別研究	1~3通	6					10	2			
	小計(1科目)	-										
合計(12科目)		-										
卒業要件及び履修方法												
3年以上在学し、基盤科目から5科目10単位以上(必修科目3科目6単位を含む。)、専門科目から1科目2単位以上、研究科目6単位、合計18単位以上を修得し、かつ、指導教員の指導下に博士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤科目	看護研究特論Ⅰ	1前	2			2						3
	看護研究特論Ⅱ	1前	2			1						1
	看護教育学研究(未開講)	2前	2			1						1
	島根と地域医療	1前		2		1						5
	保健医療福祉政策論Ⅱ(未開講)	2前		2		1						1
	健康栄養特論Ⅱ(未開講)	2前		2		4						2
	小計(6科目)	-										
専門科目	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅲ(未開講)	1通		2		2	1					
	がん看護学特論Ⅲ(未開講)	1通		2			1					
	精神看護学特論Ⅲ	1通		2		1	1					
	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ(未開講)	1通		2		2						2
	地域保健学特論Ⅲ	1通		2		6						
	小計(5科目)	-										
研究科目	後期特別研究	1~3通	6			11	3					
	小計(1科目)	-										
合計(12科目)		-										
卒業要件及び履修方法												
3年以上在学し、基盤科目から5科目10単位以上(必修科目3科目6単位を含む。)、専門科目から1科目2単位以上、研究科目6単位、合計18単位以上を修得し、かつ、指導教員の指導下に博士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。



(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

特になし。

【令和2年度】

(記入例)  
 ・兼任講師1名辞退の理由により、「看護研究特論Ⅰ」の兼任・兼担の配置を「3」から「2」に変更。  
 ・専任教員(教授)1名退職の理由により、「健康栄養特論Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」に変更。  
 ・専任教員(教授)1名(准教授)1名の退職の理由により、「ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」、「准教授1」から「准教授0」、兼任・兼担の配置を「0」から「1」に変更。  
 ・AC教員審査を受け、「高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」、「准教授0」から「准教授1」、兼任・兼担の配置を「2」から「0」に変更。  
 ・専任教員(教授)2名退職の理由により、「地域保健学特論Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授4」に変更。  
 ・専任教員(教授)3名(准教授)1名の退職、また、AC教員審査による専任教員(教授)2名の研究指導に係る審査合格により、「後期特別研究」の専任教員等の配置を「教授11」から「教授10」、「准教授3」から「准教授2」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
4 科目	8 科目	— 科目	12 科目	4 科目 [ 0 ]	8 科目 [ 0 ]	— 科目 [ 0 ]	12 科目 [ 0 ]	設置時の計画から変更なし

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{12} = \boxed{0\%}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		島根県立大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
総合政策学部 総合政策学科	4	220	3年次 10	900	学士 (総合政策学)	1.10	—	平成12	島根県浜田市野原町2433番地2	
看護栄養学部 看護学科	4	80	3年次 6	332	学士 (看護学)	1.05	—	平成24	島根県出雲市西林木町151番地	平成30年度学部名称変更
健康栄養学科	4	40	3年次 3	166	学士 (栄養学)	1.02	—	平成30	島根県出雲市西林木町151番地	平成30年度学則変更による学科の設置
人間文化学部 保育教育学科	4	40	3年次 4	168	学士 (保育教育学)	1.07	—	平成30	島根県松江市浜乃木7丁目24番地2	学部の設置
地域文化学科	4	70	3年次 3	286	学士 (地域文化学)	1.08	—	平成30	島根県松江市浜乃木7丁目24番地2	
大学院 北東アジア研究科 博士前期課程										
北東アジア専攻	2	5	—	10	修士 (社会学)	0.80	—	平成21	島根県浜田市野原町2433番地2	
地域開発政策専攻	2	5	—	10	修士 (開発研究)	0.00	—	平成21	島根県浜田市野原町2433番地2	
博士後期課程 北東アジア超域専攻	3	2	—	6	博士 (社会学)	0.83	—	平成21	島根県浜田市野原町2433番地2	
看護学研究科 博士前期課程										
看護学専攻	2	8	—	16	修士 (看護学)	1.06	—	平成28	島根県出雲市西林木町151番地	令和2年度収容定員変更に係る学則変更
博士後期課程 看護学専攻	3	2	—	6	博士 (看護学)	1.25	—	平成31年度	島根県出雲市西林木町151番地	
大学の名称		島根県立大学短期大学部								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				
保育学科	2	40	—	80	短期大学士 (保育学)	1.04	—	平成19	島根県松江市浜乃木7丁目24番地2	
総合文化学科	2	40	—	80	短期大学士 (総合文化)	1.07	—	平成19	島根県松江市浜乃木7丁目24番地2	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

## 5 教員組織の状況

<看護学研究科看護学専攻博士後期課程>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山下 一也 (62) <平成31年4月> 医学博士
		看護研究特論Ⅰ 健康栄養特論Ⅱ 島根と地域医療 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授 (研究科長)	石橋 照子 (60) <平成31年4月> 博士(保健学)
		看護研究特論Ⅱ 精神保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	倉鋪 桂子 (77) <平成31年4月> 博士(医学)
		高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	平松 喜美子 (72) <平成31年4月> 博士(社会学)
		健康栄養特論Ⅱ 高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	谷口 敏代 (66) <平成31年4月> 博士(医学)
		保健医療福祉政策論Ⅱ 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	秦 幸吉 (62) <平成31年4月> 医学博士
		ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	吾郷 美奈恵 (61) <平成31年4月> 医学博士
		健康栄養特論Ⅱ 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山下 一也 (62) <平成31年4月> 医学博士
		看護研究特論Ⅰ 健康栄養特論Ⅱ 島根と地域医療 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授 (研究科長)	石橋 照子 (60) <平成31年4月> 博士(保健学)
		看護研究特論Ⅱ 精神保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	倉鋪 桂子 (77) <平成31年4月> 博士(医学)
		高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	平松 喜美子 (72) <平成31年4月> 博士(社会学)
		健康栄養特論Ⅱ 高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	谷口 敏代 (66) <平成31年4月> 博士(医学)
		保健医療福祉政策論Ⅱ 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	秦 幸吉 (62) <平成31年4月> 医学博士
		ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	吾郷 美奈恵 (61) <平成31年4月> 医学博士
		健康栄養特論Ⅱ 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山下 一也 (63) <平成31年4月> 医学博士
		看護研究特論Ⅰ 健康栄養特論Ⅱ 島根と地域医療 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授 (研究科長)	石橋 照子 (61) <平成31年4月> 博士(保健学)
		看護研究特論Ⅱ 精神保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	倉鋪 桂子 (78) <平成31年4月> 博士(医学)
		高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	平松 喜美子 (73) <平成31年4月> 博士(社会学)
		健康栄養特論Ⅱ 高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	谷口 敏代 (67) <平成31年4月> 博士(医学)
		保健医療福祉政策論Ⅱ 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	秦 幸吉 (63) <平成31年4月> 医学博士
		ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	吾郷 美奈恵 (62) <平成31年4月> 医学博士
		健康栄養特論Ⅱ 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤 公子 (59) <平成31年4月> 博士(保健学)
		健康栄養特論Ⅱ 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	伊藤 智子 (58) <平成31年4月> 博士(医学)
		地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	三瓶 まり (58) <平成31年4月> 博士(医学)
		ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	中山 真美 (46) <平成31年4月> 博士(医学)
		看護研究特論Ⅰ 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	金城 祥教 (70) <平成31年4月> 看護学修士
		看護教育学研究
専	准教授	長島 玲子 (65) <平成31年4月> 博士(医学)
		ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	准教授	大森 真澄 (57) <平成31年4月> 博士(保健学)
		精神保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	准教授	大谷 美樹 (44) <平成31年4月> 博士(保健学)
		がん看護学特論Ⅲ 後期特別研究

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤 公子 (59) <平成31年4月> 博士(保健学)
		健康栄養特論Ⅱ 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	伊藤 智子 (58) <平成31年4月> 博士(医学)
		地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	三瓶 まり (58) <平成31年4月> 博士(医学)
		ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	中山 真美 (46) <平成31年4月> 博士(医学)
		看護研究特論Ⅰ 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	金城 祥教 (70) <平成31年4月> 看護学修士
		看護教育学研究
専	准教授	長島 玲子 (65) <平成31年4月> 博士(医学)
		ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	准教授	大森 真澄 (57) <平成31年4月> 博士(保健学)
		精神保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	准教授	大谷 美樹 (44) <平成31年4月> 博士(保健学)
		がん看護学特論Ⅲ 後期特別研究

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	中山 真美 (47) <平成31年4月> 博士(医学)
		看護研究特論Ⅰ 地域保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	教授	金城 祥教 (71) <b>&lt;令和2年4月&gt;</b> 看護学修士
		看護教育学研究 <b>後期特別研究</b>
専	准教授	大森 真澄 (58) <平成31年4月> 博士(保健学)
		精神保健学特論Ⅲ 後期特別研究
専	准教授	大谷 美樹 (45) <平成31年4月> 博士(保健学)
		がん看護学特論Ⅲ 後期特別研究

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	名和田 清子 (61) <平成31年4月> 博士(医学)
		健康栄養特論Ⅱ
兼任	教授	梶谷 みゆき (60) <平成31年4月> 修士(保健看護学)
		高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ
兼任	教授	加納 尚之 (56) <平成31年4月> 博士(工学)
		島根と地域医療
兼任	准教授	岡安 誠子 (47) <平成31年4月> 博士(看護学)
		高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ
兼任	准教授	原田 永勝 (46) <平成31年4月> 博士(栄養学)
		健康栄養特論Ⅱ
兼任	准教授	西藤 真一 (42) <平成31年4月> 修士(経済学)
		島根と地域医療

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	名和田 清子 (61) <平成31年4月> 博士(医学)
		健康栄養特論Ⅱ
兼任	教授	梶谷 みゆき (60) <平成31年4月> 修士(保健看護学)
		高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ
兼任	教授	加納 尚之 (56) <平成31年4月> 博士(工学)
		島根と地域医療
兼任	准教授	岡安 誠子 (47) <平成31年4月> 博士(看護学)
		高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ
兼任	准教授	原田 永勝 (46) <平成31年4月> 博士(栄養学)
		健康栄養特論Ⅱ
兼任	准教授	西藤 真一 (42) <平成31年4月> 修士(経済学)
		島根と地域医療

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	梶谷 みゆき (61) <令和2年4月> 博士(保健学)
		高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ 後期特別研究
専	准教授	岡安 誠子 (48) <令和2年4月> 博士(看護学)
		高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ
兼任	教授	名和田 清子 (62) <平成31年4月> 博士(医学)
		健康栄養特論Ⅱ
		(専任へ転記)
兼任	教授	加納 尚之 (57) <平成31年4月> 博士(工学)
		島根と地域医療
		(専任へ転記)
兼任	准教授	原田 永勝 (47) <平成31年4月> 博士(栄養学)
		健康栄養特論Ⅱ
兼任	准教授	西藤 真一 (43) <平成31年4月> 修士(経済学)
		島根と地域医療

## 【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	飯塚 雄一 (72) <平成31年4月> 博士(心理学)
		看護研究特論 I
兼任	講師	森山(奥本) 美知子 (57) <平成31年4月> 博士(医学)
		看護研究特論 I
兼任	講師	狩野 京子 (61) <平成31年4月> 博士(看護学)
		看護研究特論 I
兼任	講師	田中 美恵子 (64) <平成31年4月> 学術博士(看護学)
		看護研究特論 II
兼任	講師	舟島 なをみ (67) <平成32年4月> 看護学博士
		看護教育学研究
兼任	講師	宮本 恭子 (57) <平成32年4月> 博士(経済学)
		保健医療福祉政策論 II
兼任	講師	片岡 大輔 (44) <平成31年4月> 博士(医学)
		島根と地域医療
兼任	講師	中本 稔 (58) <平成31年4月> 医学博士
		島根と地域医療

## 【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	飯塚 雄一 (72) <平成31年4月> 博士(心理学)
		看護研究特論 I
兼任	講師	森山(奥本) 美知子 (57) <平成31年4月> 博士(医学)
		看護研究特論 I
兼任	講師	狩野 京子 (61) <平成31年4月> 博士(看護学)
		看護研究特論 I
兼任	講師	田中 美恵子 (64) <平成31年4月> 学術博士(看護学)
		看護研究特論 II
兼任	講師	舟島 なをみ (67) <平成32年4月> 看護学博士
		看護教育学研究
兼任	講師	宮本 恭子 (57) <平成32年4月> 博士(経済学)
		保健医療福祉政策論 II
兼任	講師	片岡 大輔 (44) <平成31年4月> 博士(医学)
		島根と地域医療
兼任	講師	中本 稔 (58) <平成31年4月> 医学博士
		島根と地域医療

## 【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	飯塚 雄一 (73) <平成31年4月> 博士(心理学)
		看護研究特論 I
兼任	講師	狩野 京子 (62) <平成31年4月> 博士(看護学)
		看護研究特論 I
兼任	講師	田中 美恵子 (65) <平成31年4月> 学術博士(看護学)
		看護研究特論 II
兼任	講師	舟島 なをみ (68) <平成32年4月> 看護学博士
		看護教育学研究
兼任	講師	宮本 恭子 (58) <平成32年4月> 博士(経済学)
		保健医療福祉政策論 II
兼任	講師	片岡 大輔 (45) <平成31年4月> 博士(医学)
		島根と地域医療
兼任	講師	中本 稔 (59) <平成31年4月> 医学博士
		島根と地域医療



【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	加藤 節司 (58) <平成31年4月> 医学博士
		島根と地域医療

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	加藤 節司 (58) <平成31年4月> 医学博士
		島根と地域医療

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	加藤 節司 (59) <平成31年4月> 医学博士
		島根と地域医療

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
  - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。  
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

**【令和元年度】**

特になし。

**【令和2年度】**

- ・令和2年4月 金城教授 専任教員として「後期特別研究」を担当。令和元年7月「教員審査済」。
- ・令和2年4月 梶谷教授 専任教員として「後期特別研究」「高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ」を担当。令和元年7月「教員審査済」。
- ・令和2年4月 岡安准教授 専任教員として「高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ」を担当。令和元年7月「教員審査済」。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
  - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	4	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
12	3	0	0	15	0	10	3	0	0	13	0
(12)	(3)	(0)	(0)	(15)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
10	4	1				10	2	1			
(10)	(4)	(1)				(10)	(2)	(1)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
10	3	0	0	13	0	11	2	0	0	13	0
[△2]	[0]	[0]	[0]	[△2]	[0]	[△1]	[△1]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
10	2	1				11	1	1			
[0]	[△2]	[0]				[1]	[△3]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	4	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{13}{15} = \boxed{86.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{4}{13} = \boxed{30.76} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び ( ) 書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	佐藤 公子	R2.3	選択	健康栄養特論Ⅱ	①	R2.3.31付け自己都合のため辞任（2）
				選択	地域保健学特論Ⅲ	①	
				必修	後期特別研究	①	
2	教授	伊藤 智子	R2.3	選択	地域保健学特論Ⅲ	①	R2.3.31付け自己都合のため辞任（2）
				必修	後期特別研究	①	
3	教授	三瓶 まり	R2.3	選択	ワイメンズヘルス看護学特論Ⅲ	①	R2.3.31付け自己都合のため辞任（2）
				必修	後期特別研究	①	
4	准教授	長島 玲子	R2.3	選択	ワイメンズヘルス看護学特論Ⅲ	②	R2.3.31付け自己都合のため辞任（2）
				必修	後期特別研究	①	
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
4	人	必修	1	科目	必修	1	科目
		選択	3	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	3	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び ( ) 書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
4	人	必修	1	科目	必修	1	科目
		選択	3	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	3	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{4}{15} = 26.66 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担当教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|--|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

4名の辞職した教員について、令和元年11月下旬～12月に次年度シラバス執筆依頼以降のところで申し出があった。大学院入試の合格発表後に履修予定科目について聞き取り済みであったため、履修希望者のあった「地域保健学特論Ⅲ」については、令和2年1月のAC教員審査により担当する専任教員の変更について審査を受けた。「健康栄養特論Ⅱ」及び「ウイメンズヘルス看護学特論Ⅲ」については履修希望者がいないものの、シラバスについての不断のブラッシュアップと専任教員の科目担当範囲の見直しを進める過程で、都度AC教員審査を受けており、全体として教育課程の維持、各科目の目標達成に影響はないと考えている。前年度からの科目担当教員の変更については、シラバス等の発行に間に合うよう作業を進め、入学予定者への周知を行い混乱はなかった。加えて、在学生については履修科目及び研究指導に係わる辞職教員はいたため研究指導及び履修上の影響はなかった。今後は、研究科長による教員との面談、懇談の機会を増やすことにより、関係する教員の状況把握を行うことで更に安定した組織運営を進めて行く。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (平成30年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。	遵守事項 教員組織の将来構想の検討を行い、博士前期課程に令和2年4月から新たに大学院の専任教員として40歳代の准教授を1名採用した。また、博士前期課程では、40代の准教授2名が、前年度までの研究指導補助教員の経験を踏まえ、令和2年度は研究指導教員として指導を行っており、若手教員が経験を積むことのできる体制をとった。	履行中 令和2年度中に1～2名が博士後期課程のAC教員審査を受ける予定としている。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし	特になし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 看護学研究科の専門委員会としてFD委員会を設置している。看護学研究科FD委員会主催の研修会を開催する他、学部・別科のFD委員会と連動し、キャンパス全体のFD活動を推進している。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>第1回FD委員会(平成31年4月10日開催) 教員の参加状況 100%</p> <p>第2回FD委員会(令和元年6月12日開催) 教員の参加状況 100%</p> <p>第3回FD委員会(令和元年7月10日開催) 教員の参加状況 100%</p> <p>第4回FD委員会(令和元年9月11日開催) 教員の参加状況 87.5%</p> <p>第5回FD委員会(令和元年11月13日開催) 教員の参加状況 100%</p> <p>第6回FD委員会(令和2年2月12日開催) 教員の参加状況 100%</p> <p>c 委員会の審議事項等 授業アンケートの実施について/授業参観の実施について/FD研修会について 研究成果の共有について</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FD研修会の開催(全5回うち研究科主催2回)</li> <li>・ 授業アンケート</li> <li>・ 授業参観</li> <li>・ 新任教員のためのFD研修</li> <li>・ 科研費の適正な執行についての研修</li> </ul> <p>b 実施方法 研究科主催のFD研修会は研究科教員及び大学院生に周知を行った。また、学部のFD研修会については、研究科教員に対しても周知を行い、積極的な参加を促した。 令和元年度の授業アンケートは紙ベースのアンケートを実施した。</p> <p>c 開催状況(教員の参加状況含む) 研究科主催のFD研修会については、令和元年度第1回9名、第2回13名の参加があった。</p>
---

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

令和元年度第5回研究科セミナー（研究科FD研修会）では、慶應義塾大学の小池智子准教授を招聘し「ケースメソッド授業の運営」について、講義とワークショップを実践した。第6回研究科セミナーでは東京大学の飯島勝也教授を招聘し「フレイル予防を通じた健康長寿のまちづくり」について開催し、研究成果を地域貢献に生かす手法について学修した。研修に参加した教員を中心に、考える力、発言する力など、大学院生自らの価値観を高めていく教授法を取り入れる等の工夫を行った。その結果、授業アンケートにおいても、研究指導については全員が役立つ適切な指導を受けたと回答し、自由記載からも感謝の言葉が多くみられ担当教員は学生の研究が円滑に進むよう指導を行っていた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

博士前期課程（M1及びM2）及び博士後期課程（D1）の大学院生を対象に令和元年1月に実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

研究科委員会でアンケートの分析・報告を行った。また、研究科長がフィードバックレポートを作成し公開した。分析結果は次年度の授業運営に反映させることとした。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし



#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
開設後2年目を迎え、令和2年度は定員2名に対し、3名（うち本学博士前期課程修了者1名）の学生を迎え入れた。2年生2名と合わせて5名の学生全員が現職社会人であり、教育研究機関（大学）から4名、保健医療機関から1名で、将来大学などで准教授、教授の上位職や研究者、あるいは保健医療機関での管理者につき、地域医療を牽引できる人材育成に就くことを目指して、より高度な教育実践力、看護実践力、マネジメント能力及び研究能力などを身に着けようと熱心に学修に取り組んでいる。
開講科目等について設置計画から変更なく運営を行っており、今年度はコア科目である「看護教育学研究」がスターとする。学生とともに教員も授業参加可能としており、看護教育内容・方法に研究的に改善・工夫に取り組めるようにしている。また、2か月に1回博士前期・後期課程ともに合同検討会を開催しており、領域を超えて学生の研究発表に対してディスカッションできる場を設け、研究指導の充実に力を注いでいる。
令和元年度の科研費採択件数は（挑戦・萌芽研究を除く）申請30件中8件の採択（採択率26.7%）で、継続と合わせて23件である。教員の研究力向上に向け、研究者向けのeポートフォリオシステムを立ち上げ、若手研究者の育成に取り組み始めた。さらにこれまで運用してきた研究科の教員が中心となって取り組んできた6つのプロジェクト研究チームも継続している。設置の趣旨・目的達成のため、遺漏なく運営を行って行く。
② 自己点検・評価報告書
a 公表（予定）時期
・ 認証評価の結果 令和2年4月に公表
・ 出雲キャンパス年報 毎年5月中旬に公表
b 公表方法
・ 研究科、学部、別科の学生支援、委員会活動状況及び課題をまとめた「出雲キャンパス年報」を毎年作成し5月中旬に大学ホームページに掲載を行っている。
③ 認証評価を受ける計画
・ 公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審。平成31年4月下旬に自己点検・評価資料の提出を行った。同年10月に実地調査が行われた。
令和2年3月末に「適合」の評価結果が公表された。認定期間は、令和2年4月1日～令和9年3月31日までである。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）
a 公表予定の有無 [ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 ]
《 a で「有」の場合》
b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ <input checked="" type="radio"/> 公表後2～3ヶ月以内 公表後3ヶ月以降 ]
c 公表方法 [ <input checked="" type="radio"/> ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]
《 a で公表「無」の場合》
d 公表しない理由 [ — ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。